

飲酒運転 「ばれなければ…運転してもいいと思った」

摘発の70%供述 北海道警察が調査

2016年8月25日(木)7時30分

酔ってない、人目少ない、目的地近いから…

北海道内で今年1～7月に飲酒運転で摘発されたドライバー404人のうち、71%に当たる286人が、北海道警の調べに「見つからなければ運転してもいいと思った」との趣旨の供述をしていたことが分かった。

飲酒運転による重大事故が相次ぐ中、依然として「ばれなければいい」と考えるドライバーは多い。

専門家は「自分は酒に強いから大丈夫と考える人が多いのではないかと指摘する。

道警は飲酒運転の抑止につなげるため、昨年からの検問や事故などを端緒に摘発した飲酒運転のドライバーに、泥酔状態など聴取できない場合を除き、飲酒運転の動機や状況などを任意で聞き取り、分析している。

「見つからなければいいと思った」などと述べた286人の多くは、根拠として「(自分は)事故は起こさない」「目的地が近くだから」「深夜、早朝だから人目がない」などを挙げた。このほかの動機では「タクシーや運転代行の料金が惜しかった」が45人、「事故を起こすほどの酔いではないから大丈夫だと思った」が20人、「二日酔いだが運転できると思った」が19人だった。

「事故を起こすなんて思ってもいなかった」。札幌市の40代男性は後悔を募らせる。

6月、札幌・ススキノで未明まで飲酒した後、自宅に車で帰る途中で物損事故を起こし、道交法違反(酒気帯び運転)容疑で現行犯逮捕された。男性は「車を翌朝取りに来るのが面倒」と考え、タクシーを使わなかったという。

「冷静な判断ができなくなっていた」と振り返る。

運転目的は「飲酒先からの帰宅」が210人と52%を占め、「友人宅などへの訪問」が62人、「コンビニなどへの買い物」が47人と続いた。

道警幹部は「友人宅で飲み直そうとしたり、自宅で酒やつまみが足りなくなって車で買いに行ったりするなど、悪質なドライバーが目立つ」と指摘する。

直前の飲酒場所では「居酒屋、スナック」が189人と47%で最多だったが、「自宅」も123人と30%いた。

アルコール問題に詳しいメンタルクリニック(札幌)の院長は「飲酒運転に対する世間の目が厳しくなる一方で、自宅では注意する人がおらず、甘くなるのでは」と分析。

「酒を長時間飲み続けると酔った感覚に慣れ、自分は正常だと思い込んでしまうが、実際は運動能力や判断力は低下している。啓発や教育で正しい知識を伝えることが大切だ」と話す。